

農業用ダムによる洪水調節機能強化の取組(令和5年梅雨期の大雨)

効果概要: 農業用ダムの有効貯水量を洪水調節に最大限活用するため、5月31日から6月2日にかけて、全国6基の農業用ダムにおいて事前放流を実施し、下流河川の水位上昇の緩和・被害防止に寄与した。

■ 実施主体: 施設管理者(国、県、水資源機構、土地改良区等)

■ 対策の概要: 事前放流実施ダム一覧(5/31~6/2)

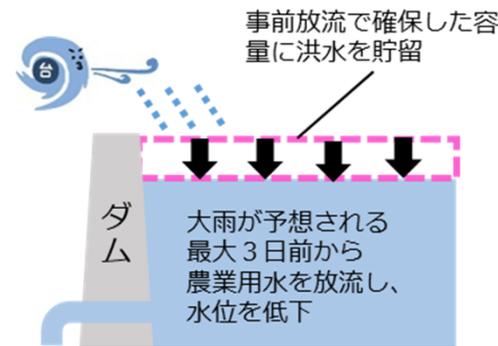
水系	ダム名	所在地	管理者
神通川	ゆたにがわ湯谷川ダム	富山県	富山県
木曾川	まきお牧尾ダム	長野県	水資源機構
木曾川	まつの松野ダム	岐阜県	かに 可児土地改良区、かにがわ 可児川防災等 ため池組合
豊川	おおしま大島ダム	愛知県	水資源機構
矢作川	はぶ羽布ダム	愛知県	愛知県
加古川	どんと呑吐ダム	兵庫県	農林水産省近畿農政局

※ 事前放流に加え、農業用ダム5基において利水空き容量を活用して洪水調節容量を確保。

■ 効果:

- ・農業用ダム11基において、貯留していた用水の事前放流や、利水空き容量の活用により合計2,600万 m^3 の洪水調節(治水)容量を確保。
- ・河川水の貯留により、ダム下流河川の水位上昇の緩和・被害防止に寄与。

「事前放流」とは、大雨による流入量を予測し、降雨3日前から、利水貯留水を放流し、洪水調節容量を確保する取組



牧尾ダム(長野県)事前放流状況

農業用ダムにおける洪水調節容量の確保の経過(牧尾ダム、令和5年6月)

